

## 第5回 鎌倉海岸七里ヶ浜地区侵食対策協議会

### ◇ 開催概要

日時：令和6年9月30日 14:00～16:00

場所：鎌倉市消防本部 鎌倉消防署 3階講堂

出席者：委員18名、事務局5名、傍聴者4名（委員随行者含む）

### 議事概要

#### 1. 開会

#### 2. 試験養浜後の海浜状況について（資料1）

- ・ 令和6年4月にプリンス駐車場の東側で養浜工事を行った。岩盤と砂浜が隣接する箇所に砂を投入するため、令和5年4月に実施した養浜盛土を切り崩して仮設通路をつくり、その後、東側に砂を搬入し、養浜を行った。
- ・ 令和6年4月に実施した砂浜部での養浜工は若干削られたが、岩盤部での養浜工は道路護岸基部を除いてほぼ無くなり、東側ほど養浜工が削られる傾向がみられた。
- ・ 盛土や仮設通路に囲まれた範囲は緑化が進んだ。
- ・ タイムラプスカメラを4箇所に設置し、浜の状況を確認している。5月7日頃に養浜砂が大きく流失した。

#### 3. 養浜後の七里ヶ浜の現地調査について（資料2）

- ・ 令和6年5月31日に盛土の流出状況について、現地調査を実施した。
- ・ 駐車場東側の養浜盛土は、波の作用で浜崖を形成しつつ削られた。浜崖は駐車場に近い場所では比高が低く、離れるに従い比高が増大し、盛土の変形量が大きかった。
- ・ 駐車場東側の浜幅が広い砂浜では、勾配1/6の砂浜であったが、それより東側の岩盤部では浜幅が急激に狭まっているため、盛土に波が作用しやすく、土砂の流出が著しかった。
- ・ 浜幅が広い場所では、養浜後にビーチカスが形成されていたことから、少なくとも汀線付近が堆積傾向になっていたことを表す一つの証拠にはなるが、削り取られた土砂量が少なかったため、汀線付近にとどまり明瞭な形でバームができていない。

#### 4. 定点カメラによる七里ヶ浜での養浜後の地形変化の追跡調査について（資料3）

- ・ 4箇所に設置したタイムラプスカメラにより、令和6年5月の養浜土砂の移動状況について、平塚沖波浪観測データを用いて分析した。
- ・ 養浜盛土の区間では、堆積は起きておらず、波の作用で徐々に削られたことから、この区間では西向きの沿岸漂砂ではなく、主に沖向き漂砂による地形変化が起きていたことを示している。
- ・ 盛土区間東部では、汀線が凹状で深みが汀線まで発達しているため、波の作用が相対的に強く、土砂の流出が著しかった。
- ・ 極楽寺川付近では、波浪の強弱に伴う前浜の侵食・堆積が顕著であった。

5. 令和6年度の養浜工事について（資料4）
  - ・ 極楽寺川周辺では、砂浜が減少していることから、本年度は極楽寺川周辺で試験養浜を行いたい。
  - ・ 令和7年2月から3月にかけて現場工事を実施する予定。工事は稲村ヶ崎公園から砂を搬入し、仮設通路を整備し、極楽寺川の右岸側で養浜を行う。
  
6. 令和6年度のスケジュール（資料5）
  - ・ 環境影響調査等の実施では、海中調査、海浜植生調査の他、稲村ヶ崎周辺の2カ所において流況調査を90日間予定する。
  - ・ 養浜工事は、1月から準備を開始し、2月から3月にかけて工事を実施する予定である。
  - ・ 次回協議会は、3月上旬にシミュレーション等による状況説明や環境の調査の報告を行う予定である。

●委員意見概要

主な委員意見を整理した。(●意見、⇒意見に対する回答など)

●写真撮影時の潮の高さは分かるか。大潮の満潮時を狙って撮影しているのか。

【奥田委員】

⇒満潮を狙っているわけではなく撮影できるときに写真を撮っている。撮影時刻は調べればある程度はわかるが、現時点では潮位は把握していない。【事務局】

⇒タイムラプスカメラについては1時間に1回撮影しているので、その中で一番干潮時に近い写真を使用している。【事務局】

●今回の養浜で初めて現物を見たが茶色い土であった。土の部分が10%と言っているが、海に流れ出すと真っ茶色に濁る。ワカメ漁の採取時期でもあり、6月いっぱい魚が付かなかったので、泥の影響だと思う。海の中への環境破壊の影響が大きいと思うので、その辺も皆さんで考え、これからの養浜を進めてほしい。この事業については大事な事業だと思うし成功させたいが、組合員にも影響が出ているので、この場で伝えている。【池田委員】

⇒漁業への影響が極力少ないようにしつつ、浜を復元する方策がないか議論するのがこの場の目的です。そのようなマイナス影響が出ないように極力進めていかなければならないが、できる限り妥協できるところは妥協し、工夫すべきは工夫して前に進むしかない。【宇多会長】

⇒七里ガ浜での養浜は、ある程度、持続、維持していかなければいけないと思っている。そうすると、経済的なことも考え、できるだけ泥がないもので、もともとあった七里ガ浜の粒径に近い材料を、今取れる材料から取って入れていくというのが現実的になると思う。そういう意味では、神奈川県も粒径の選択にかなり配慮はしていると思うが、実際にすべての材料を分析しているわけではないので、今後は慎重に進めないといけないと思う。【石川副会長】

⇒現実的などころもあると思うので、1つの案としては、確実に流されるような岩盤の上での養浜は、極力シルト粘土分の少ない材料を選べるようにして、これが全部流れるかもしれないことを前提に、漁師さんと入れるタイミングも相談しながら、工事の時期を調整するというのもあると思う。また、プリンスの駐車場脇の盛土をみるとある程度草が生えて安定しているので、七里ガ浜全体の中で流出する可能性が低いところは逆に少しシルト粘土があっても、それが土として締め固まって安定するので、シルト粘土分の入れ方と、入れ場所について、もう1段階、2段階、細かな検討をしていただければと思う。【清野委員】

⇒このことは今後の養浜のかなり重要な部分なので、少し考えていただきたいと思う。【宇多会長】

●泥については、見た目の感じと数字で言われる感じでの認識に違いや、土木の人が思う泥と、生き物にとっての泥というものが若干ずれる場合があるので、認識や感覚の違いをすり合わせていく必要があると思う。【清野委員】

⇒中央粒径と粒度分布について2箇所調べており、養浜前の中央粒径は2.5mmと6.8mmで粘土を含んだシルト分の割合は8.7%と3.9%であり、受入基準の10%以下を満たしている。また、養浜後の中央粒径は4.2mmと1.2mmとなっている。養浜砂として使える砂の選択肢があまりないという状況になると、数値でしか判断できないが、シルト分は10%を下回っているということで、七里ガ浜にはこの養浜砂を使用している。

【事務局】

- 七里ガ浜の駐車場のところは鉄分を含んだ黒い砂がみられ、その上に盛土部分の細かい砂が積っている感じである。それと七里ガ浜の駐車場の方は浜が減っていないが、稲村ガ崎に近づくほど侵食が激しくなっていると感じる。潮の流れが変わってきているのか。【伊澤（中原委員代理）】
  - ⇒プリンスの駐車場付近は以前から砂浜が残っており比較的安定している。黒い砂は全部砂鉄分で、他の砂に比べ比重が重い。黒い砂は昔極楽寺川から供給されたもので、前浜に留まっている。細かい砂は沖に流れていると思う。【宇多会長】
  
- 季節によって砂の量が変化している。9月から10月、冬場の間は砂が減り、4月から5月にかけて砂が増えていく。しかし、プリンスの駐車場の方は、あまり変わっていない。もし、駐車場がなければ、同じような状態が多分起きているのではないかと思う。【伊澤（中原委員代理）】
  - ⇒日本の海岸では、4月頃の気候が穏やかで波が静かになると途端に前浜に砂が戻ってくるが、お盆の頃にしけた波が来ると一晩で70cmほどの砂が流出することがある。ゆっくりと溜まってぱっと無くなるようなことが起こる。ここも同じだと思うが、日本のこの辺りの気象条件がそうだからそうなっているとしか言いようがない。一方、駐車場の東側は、駐車場が影となり波が遮蔽されるので変動が小さい。極楽寺川側に近づくと波にさらされるので、砂がなくなると解釈できる。【宇多会長】
  
- 定点カメラによる養浜後の地形変化の追跡調査で、すべ川の水叩きのところだと思うが、工事の現場監督からぬかるみで足を取られるから重機でみずみちを掘ったと聞いたが、宇多先生はご存じか。【奥田委員】
  - ⇒業者が掘ったというみずみちは、深く掘ったわけではなく、雨が降ると護岸前面に雨水が溜まってしまうので、20~30cm掘ったものである。【事務局】
  - ⇒詳細は知らなかったが、統一見解として、地下水が出てくるところはみずみちを作り、表面から40~50cmぐらい窪地を作っている。しかし、完全な排水路が入っているところは砂を盛っていない。【宇多会長】
  - ⇒すべ川（カルバート水路）の上には砂は盛っていない。仮設通路として重機を入れるために一時的に盛ったが、完成形としてはすべ川の上には盛っていない。【事務局】
  
- 池田委員が話していた濁水について、資料3の11,12ページを見ると、海側の濁水が自然の河川から通常の出水で出てくるものよりもちょっと泥が濃い気がする。これぐらい茶色になってしまうのは土砂災害で一気に土砂が出た後の海域で、しばらく泥が巻いているときの濁水に近い規模でないかと思う。同じ資料3の5ページを見ると、5月7日は平塚のところでも高い波が観測されているので、盛土したところに高い波が入ってきた時に出たかなという気がして、これは養浜や土砂崩れで海に泥が出てしまったことで起きてしまう現象なので、今後、ここで可能かどうかわからないが、どの段階でどういう濁水がどこに出るかを見ていただいて、今後の養浜計画で検証する必要があると思う。【清野委員】
  - ⇒資料の9ページの汀線付近の岩盤のところは平坦なので、砂は溜まらない。砂は浜に全部寄せられる。細かなものがどこに行くか。【宇多会長】
  - ⇒なぜ私が泥のことを気にしているかということ、泥っぽいところにいるウチムラサキという大きい貝の打ち上げが西側の方が多いと思ってい

る。江の島に近い方でウチムラサキが多く出ているので、常に泥があると思うのだが、濁りが西側に行くという傾向はあるかもしれない。そういうことも含めて漁師さんの観察は重要だし、それを一緒に見ていくような観測ができればと思う。【清野委員】

⇒泥とか土砂が溜まっているかを調べるのであれば、5月から6月にかけての大潮時期が適している。干潮で潮が引くと岩、磯が出てくる。そうすると、磯の中に海水が溜まった部分があって、そこを見ればすぐわかると思う。一番の絶好の機会になると思う。【伊澤委員（中原委員代理）】

⇒委託している環境調査は、毎年1回、10月下旬から11月に実施している。10月調査に他に5月調査を実施するか、検討しなければいけない。

【事務局】

⇒それだったら5月か6月のほうが絶対によい。【池田委員】

⇒その時期にやれるかどうかわからないけれど、検討に値する。【宇多会長】

⇒事務所で検討する。【事務局】

- 稲村ガ崎で養浜することについて、鎌倉市側としてはどんな感触を持っているのか教えほしい。【宇多会長】

⇒稲村ガ崎には石碑もあるので、そこに仮設構台を組んで工事ができるのか、文化財課にも確認をしてもらっている。【鎌倉市 田中委員】

⇒鎌倉市としても、海はかなり重要なポイントなので、出来る限り神奈川県に協力していきたいと考える。【鎌倉市 田中委員】

- 神奈川県に質問ですが、資料4の図3の②の写真、極楽寺川の左岸側の一部には養浜砂は入れないが、ここは前面の岩盤が根固め潜堤みたいになっており、波が飛び込んでくればすぐに削れて流されていくと思うが、ここを無理にあげる必要があるのか。何か意図があれば教えてほしい。【石川副会長】

⇒海に砂を入れることに抵抗感があり、開口部を塞ぐ必要があるか否かについては、意見をいただければ、仮設材等で塞ぐということも可能です。【事務局】

- 6月に非常に天候が荒れて、流木が七里ガ浜に多く流れ着いた。現在も行合川から小動まで残っている。潮の流れと流木が上がってきた関係性を知りたい。

【伊澤委員（中原委員代理）】

⇒流木は川から来ていると思う。相模川だけでなく、神戸川とか小さい川、どこかの山から流れ出たら海に必ず来る。流木は比重が軽いから浮いている。波で海側から押され、陸に打ち上げられる。【宇多会長】

⇒今年については大きな流木をはじめ、非常にごみが浜に打ち上がっているところが、ここだけではなくて、西湘地域を含めて至るところにあり、海岸全体でそういう現象が起きているとご理解いただきたい。ごみについては、片付けているところですが、七里ガ浜のあたりは10月に入ってからになるので、ご理解いただきたい。【門脇委員】

以上